

女性研究者技術者委員会ニュース

No. 24 2012年2月1日

連絡先：日本科学者会議全国事務局 Tel：03-3812-1472、Fax:03-3813-2363

e-mail: zenkoku@jisa.gr.jp ホームページ <http://www.jisa-t.jp/woman/index.html>

目次

1. 特集 第13回女性研究者技術者全国シンポジウム
 - 1-1 プログラム、1-2分科会概略 1-3 実行委員長総括 1-4 女性研究者技術者委員会委員長報告 1-5 現地実行委員会事務局まとめ 1-6 参加者感想
2. シンポジウムの歴史から 「女性研究者技術者全国シンポジウムから学ぶ」
3. 各地の話題 「サイエンスカフェ 女子会」で放射能を語りあう（大阪）
4. 2011年女性研究者技術者委員会記録
5. 事務局メモ 女性研究者技術者委員会関連 活動の記録(2011年)

1. 特集 第13回女性研究者技術者全国シンポジウム

1-1 プログラム

主催：日本科学者会議

開催日時：2011年10月16日（日）11時～17時

開催場所：立命館大学衣笠キャンパス 創思館

テーマ：女性研究者・技術者の明日を考える

参加費（資料代）：一般1000円、院生・学生100円

タイムスケジュール

11:00-11:30 実行委員長挨拶 坂東昌子さん

11:30-12:15 記念講演 宇野賀津子さん

「20世紀科学の発展と女性役割の変化」

12:15-12:30 質疑応答

12:30-13:00 休憩

13:00-15:00 4分科会

15:00-15:20 休憩

15:20-16:50 全体会

（各分科会の報告と総合討論）

16:50-17:00 閉会挨拶

17:00 終了

報告集を販売いたします。

価格：1000円+送料

申込み方法：住所、氏名、連絡先TEL、
アドレスを記入し、FAXかメールで

申込み先：JSA全国事務局

事務局住所：〒113-0034

東京都文京区湯島1-9-15

茶州ビル9F

Tel: 03-3812-1472

Fax: 03-3813-2363

Mail: zenkoku@jisa.gr.jp

代金支払い：郵便局振込み

1-2 分科会概略（敬称略）

①「女性研究者・技術者の社会貢献」

研究者・技術者の社会貢献とは、女性と男性との視点・貢献内容違い、等
経験報告「女性団体と共催の原発学習会」「武田薬品でのちと権利を守る長期争議
に取り組んだ経験から」

司会：石渡真理子、 話題提供：池上幸江、西田陽子

②「若い女性研究者・技術者のキャリア形成とネットワーク」

女性研究者・技術者のキャリア形成、女性研究者・技術者の成長を助けるネットワークづくりと運営、等

司会：二木杉子、 話題提供：朴木佳緒留、塩川祥子

③「女性研究者・技術者と家族 その1 結婚・子育てを中心に」

ワークライフバランスとは、職場や家族との協力関係構築、留学・出張・残業などの問題の解決法、保育所の問題、両立支援の諸制度の活用、等

司会：長谷川千春、話題提供：寺岡敦子、今田絵里香

④「女性研究者・技術者と家族 その2 介護を中心に」

介護経験済み・経験中の男性の報告、仕事と介護両立法、日本の介護支援制度、等

司会：小森田精子、話題提供：上野鉄男、藤井伸生

1-3 実行委員長総括 「女性研究者技術者全国シンポジウムを終えて」

ふりかえると、この厳しい情勢の中で、女性研究者のシンポジウムで印象に残ることがある。1つは、女性研究者の支援が進んでいる現在といえども、まだまだ女性のネットワークが必要だということであった。1人ではとても克服できない問題を抱えている、たくさんの仲間がいることの認識である。なかでも、この時買った、島影美鈴さんの「研究難民」(自主出版)は一気に読んだ。あるウイルス研究者の手記であるが、よくぞこんな厳しい環境で頑張った人がいたことに感銘を受けた。同時に、学術界に残る陰湿で閉鎖的、科学をまっすぐに愛していない現状を痛感した。しかし、実務家を育てる医学や法学分野では、こういう差別不当な扱いが、まだまだ残っているのだと痛感した。こうした事例に正面から切り込んでいくすべはあるのだろうか。学会のあり方、研究室のあり方、研究評価のあり方を、もっと真正面から見つめておかなければ、今回起こったようないわゆる「原子力村」の体質は変わっていかないだろう。その中で、ともかくも研究の意欲を持ち続け、これまで生き延びてこられたのは、仲間のネットワークがあったからだ、ということがひしひしと伝わる。仲間がいるから頑張れるのである。そして、著者は、切実に、「私が被った不合理を次世代に残したくない」と願っている。そしてその逆境の中で、研究に情熱を燃し続けるとともに、現在の医療制度の矛盾を鋭く問い詰める姿勢も培っている。男女共同参画のネットワークができ、若い人たちにはそれなりのケアが一定できる時代になったとはいえ、まだまだ女性研究者のそばに寄り添う組織が必要である。特に、これまで苦勞してきた高年齢の女性研究者は、それだけ多くの経験と苦勞を重ねている。この知恵を生かして、たとえ短い期間でも正式のポストに就き、思いっきり活躍する場を作ることにも必要なのではないか。それは、「年齢制限を乗り越えて公募でポストを得、そこで大活躍をして今はベンチャービジネスの社長」の経験を語ってくださった塩川祥子さんの経験と重なる。活躍の場が与えられたら、必ずや後の世代に大きな影響を与えてくれるという気がした。

東日本大震災と福島原発人災事故以後、科学技術と社会の関係を鋭く問われた。いったいどこで真実が語られているのか。テレビや新聞というマスコミを通じて大声で発言する人は、安全を誇張する側か極端に危機を訴える側かで、真面目な現場の科学者は、ほとんど口を閉じた。良心的であっても情報発信する側になるにはリスクも伴う。この時、NPOの仲間である宇野さんと私は、やむにやまれない気持ちで情報発信チームを立ち上げた。宇野さんがエイズ患者支

援に身を挺して飛び込んだという経験、その思いがそうさせたのだ。今、歴史的な大災害と人災という歴史の転換点に立って、女性科学者技術者の新たな責任を痛感する。そこには、先見性を持ち、既成の組織やステレオタイプの正義感をこえた新しいタイプのリーダー、それはこうした経験をもつ人材の起用も射程に入れる必要がある。「父性文化から母性文化への転換」(村田光平)には、父性文化と母性文化の特徴比較表があり、進歩と進化、直進と循環、競争と調和、ヒエラルキーと対等、知性重視と感性とのバランス、実力行使と対話、トップダウンとボトムアップ、自然征服と共生(トモイキ)などが挙げられている。あくまで科学的認識に立脚しつつ、人間に対する愛・母性を貫くという方向だ。女性が科学技術に参画することによって、「競争」から「協調」へ、「序列」から「ネットワーク」へ、とその基調が変革し、利潤追求型から共通目標へ向かって協力できる仕組みを作っていけないだろうか。3・11を経た今、すでにその1歩は踏み出しているのではないだろうか。プロジェクトXが描いた「男のロマン」から、「プロジェクトXX」で女の知と愛を描ける社会に向けて、さらにネットワークを広げていきたいと願っている。

坂東昌子(第13回女性研究者技術者全国シンポジウム 実行委員長)

1-4 女性研究者技術者委員会委員長報告「女性研究者の未来」への課題が明らかに

秋晴れの10月16日(日)、京都市立命館大学衣笠キャンパスで「女性研究者・技術者の明日を考える」シンポジウムが開催されました。

シンポジウムの目的は、「女性が科学技術に参画することで、『競争』から協調へ、『序列』から『ネットワーク』へ、利潤追求型から共通目標へ向かって努力できる仕組みを作っていけないか」、様々な立場、世代の女性研究者、男性研究者が議論することにあります。

実行委員長は、女性研究者運動の老舗ともいえるべき「京都婦研連」の創設メンバーである坂東昌子さん。「20世紀科学技術の発展と女性役割の変化」と題した記念講演は、ルイ・パストゥール医学研究センター基礎研究部室長の宇野賀津子さん。『理系の女の生きかたガイド』(ブルーバックス)をともに執筆されたお二人の、女性研究者運動の歴史そのものを体現するような坂東さんのメッセージ、宇野さんのご講演は、互いに響きあい、女性研究者がどのようにネットワークを形成し、確かなデータをもとに学問、研究の分野で新しい視点をうちたてるか、そんな女性研究者の未来への力強い励ましを与えるものでした。

午後の分科会は、参加者みんなが語りあう場を持ちたいとの意図から、(1)「女性研究者・技術者の社会貢献」、(2)「若い女性研究者・技術者のキャリア形成とネットワーク」、(3)「女性研究者・技術者と家族 その1 結婚・子育てを中心に」、(4)「その2 介護を中心に」の四つの分科会に分かれての話題提供と議論を行いました。

すべての分科会を通して世代間の交流がなされるとともに、世代間や置かれた立場で様々な異なる問題も浮き彫りになりました。また「介護」に関して男性研究者からの話題提供がなされたことは、今までのシンポジウムにはなかった特徴といえます。さらに、若い世代ほど、保育の問題を職場で話題にしにくくネットワークを作りにくくなっている状況や、若手の就職難の深刻さなど、女性研究者運動を継承するうえでの課題も鮮明になりました。

参加者は、45名(うち非会員16名)、また当日、入会してくださった方が2名です。今

回のシンポジウム開催に当たっては、女性研究者問題委員会メンバーの周到で細やかな準備と支えあい、そして「引き受けるなら形だけの実行委員長ではなく、実のある行動をしたい」とシンポジウム参加者への呼びかけ文をよせてくださった坂東さん、それぞれの方々の協力を得ることができました。シンポジウム当日だけでなく、準備のプロセスで、協調とネットワークが積み重ねられ、実りあるシンポジウムが開催されたことに、心から感謝をしつつ、シンポジウムの報告とさせていただきます。

沢山 美果子（女性研究者技術者委員会委員長）

1-5 現地(京都)実行委員会事務局まとめ「元気になれた、仲間も増えた」

本シンポジウムの出発点は、2010年11月に宮城県仙台市で開催された第18回総合学術研究集会での女性研究者技術者委員会の分科会「男女共同参画はどこまで進んだのか」に集った委員からの要望・提案です。それぞれの現場で奮闘している女性研究者技術者が「元気になれる」ような会に、そしてベテランの方のご経験を身近に聞くことができ、また集われた方々の思いを交流できるような会にしたいと準備を重ねてきました。

当日は、坂東昌子実行委員長（愛知大学名誉教授、NPO 法人あいんしゅたいん理事長）の挨拶から始まりました。女性が研究・仕事を続ける上では保育所が不可欠との思いで京大保育所を実現されたご経験や、科学的データに基づく女性の地位向上の取り組みなどをお話いただきました。

記念講演は「20世紀科学の発展と女性役割の変化」と題して、宇野賀津子氏（ルイ・パスツール医学研究センター基礎研究部室長）にお話いただきました。人類の歴史のなかで最近の100年は科学技術の発展・普及により女性のライフサイクルや生き方に大きな変化が起こり、男女の関係においても機能差が乗り越えられつつあること、そして女性研究者のライフサイクル（育児・子の受験・思春期・更年期・介護など）に対応した支援プログラムの必要性について語られました。

その後4つのテーマ別に出席者参加型の分科会を行いました。テーマは、(1) 女性研究者・技術者の社会貢献（話題提供者：池上幸江氏、西田陽子氏）、(2) 若い女性研究者・技術者のキャリア形成とネットワーク（話題提供者：朴木佳緒留氏、塩川祥子氏）、(3) 女性研究者・技術者と家族〈その1〉結婚・子育てを中心に（話題提供者：寺岡敦子氏、今田絵里香氏）、(4) 女性研究者・技術者と家族〈その2〉介護を中心に（話題提供者：上野鉄男氏、藤井伸生氏）、でした。分科会では、それぞれ2名の方から話題提供者として口火を切っていただき、その後活発な質疑応答や意見交換が行われました。

最後に、各分科会での議論状況を報告し、さらに意見交換を行う全体会を行いました。女性技術者・研究者、そして特に若手研究者を取り巻く状況は非常に厳しいものの、その現状を共有し社会にアピールすること、そして当事者たちが連帯することの大切さなどが意見として出されました。学生・院生の参加が少なく、また男性参加者も少なかったのは残念でしたが、非会員の参加も多く、JSA への新規入会者も複数得るなど、派生的な成果もあり、とりあえずは一つの成功事例にできたのではないかと思います。

長谷川千春（現地実行委員事務局）

1-6 話題提供者、聴講者の感想

①世代間を越えた女性研究者・技術者のネットワークを

「女性研究者のキャリア形成に世代間の違いはあるのだろうか」現在上智大学で女性研究者支援に携わりながら感じている疑問を持ちながら今回の分科会に参加しました。話題提供者である朴木先生、塩川先生のお話から、女性に対しての門戸がせまく、育児の負担も大きかった時代に、様々な苦労の中、研究続けてこられた意志の強さと研究に対する情熱と、研究に対する使命感を感じました。現在の若手女性研究者は、いくらか良くなったとはいえ出産・育児と研究の両立は困難なうえ、深刻なポストク問題を抱え閉塞感を感じているようです。しかし、朴木先生や塩川先生方と同じような研究に対する情熱の種はあると信じ、支援をしていきたいと思いました。そのためには世代間を超えたネットワークを形成し、このような先輩研究者の貴重な体験や想いを伝えていくことの必要性を実感しました。若手女性研究者が苦しくとも希望を持って研究を続けられ、前進していけるように、ネットワークを活用した戦略を考えていきたいと思いました。

近藤佳里（上智大学女性研究者支援事務局プロジェクトコーディネータ）

②暖かい共感の輪に安心

初めて参加させて頂きましたが、皆様に共感を持って私の話を聴いていただくことが出来まして、ほっと一安心、肩の荷が降りたという感じです。私とあまり変わらない研究難民の一人と思われる共同研究者の中にも、「こんなこと書いたら、不愉快な人もいるのに」と言われる人がいたものですから、精神的に落ち込んでいたと思います。あれからは、「私も研究難民なので」というメールをもらったりして、仲間は大勢いることが確信できました。現在、研究業績の評価がなされないことは、自己責任とされていますが、そうではないことを訴えていきたいと思っています。会場に集まられていた方々が、ご自分の考えをしっかりと持っていらして、それを大切にされて生きておられるようで、感銘を受けました。(S)

③プロジェクトXXは新しい男女関係

坂東昌子実行委員長のあいさつは 女性というだけで受けた差別や苦労をのりこえてきた女性研究者、働く女性の歴史だと思いました。「プロジェクトXX」をめざしてこれからもどんどんやっついていこうという話に力づけられました。

宇野加津子さん記念講演の「性差はどうしてできるのか、生殖の歴史、女性の生活の変が重要である」ということがよくわかりました。今までの生殖や育児だけの男女関係から、これからは新しい夫婦関係、男女関係を考えていきます。(M)

2. シンポジウムの歴史より「女性研究者技術者全国シンポジウムから学ぶ」

大学卒業後、研究公務員の道に進みましたが、結婚後は子育てと仕事に悪戦苦闘の毎日でした。それでも研究だけではなく、職場の民主化に力を注いで、科学者会議や組合活動に参加していました。私自身はとくに職場での女性差別に悩むことはありませんでしたので、女性研究者への差別の実態やその背景に対する関心もありませんでした。分会活動で

はメンバーはほとんど男性でしたので、職場の問題や日本の栄養や食糧問題について議論したり、そうした分野の科学者会議の委員会活動にも参加していました。

今から 25 年くらい前から、科学者会議の女性会員の方々と交流する機会が増え、皆さんから色々学ぶことが多くなりました。その頃になると、自分自身の立場も安定してきましたから、苦勞している若い女性たちのために役に立ちたいという思いがありました。また、日本では女性への差別は根深く、その背景にはわが国の科学技術政策や社会構造など、根本的な問題があることを知りました。それを最も理論的にも、現実的にも学ぶ機会が女性研究者問題のシンポジウムでした。私はシンポジウムには第 6 回からほぼ継続して参加しています。

その中で最も印象が深かったのは、やはり実行委員会メンバーとしてかかわった 10 回以降です。それぞれ、苦勞がありました。何とか多くの方々に現状を知っていただき、女性差別の実態や社会的背景の改善につなげていきたいと思いました。また、全国の女性研究者や技術者と繋がることができました。

それぞれのシンポジウムについて、石渡さんが報告書にリストとしてまとめて下さっているのをみながら、あれこれ思い出しています。特に印象深かった会として 1 つを上げるとすると、2003 年の大阪での第 11 回シンポジウムでした。パネルディスカッションのテーマ「たよりになりませ 女性研究者・技術者」はいかにも大阪らしく、そしてこれまでとは違って女性研究者や技術者に限定せず、市民団体などとの連携により、多くの問題を共有できたことが私たちに新しい道を示したのではないかと思います。また、この回が私に印象深かった理由のもう一つが、会場が大学卒業後の最初の職場に近く、仲間たちと勉強したり、遊んだりした大事な私の若い時期を思い出させるシンポジウムでもありました。

現在、私は原発問題で多くの市民団体の要請を受けて学習会講師を務めています。第 10 回のシンポジウムの経験が背景にあるかもしれません。研究者や技術者の社会的役割を常に考える科学者会議の会員としてどう生きていくかが今までになく問われる時代になりました。研究者は自分の殻の中に閉じこもりやすく、私自身も動きの鈍いことを痛感しています。もっと社会に出て行くことが今まさに求められていることを感じながら、自分の役割を模索しているところです。

池上幸江（日本科学者会議東京支部代表幹事）

3. 各地の話題 「サイエンス・カフェ 女子会」で放射能を語りあう（大阪）

「3.11」以降、女性グループに請われて、放射線や原発の話をする機会が何度かありました。労組女性部、医療生協、政党後援会などです。いずれも 20 名未満の小規模集会で、お茶やコーヒーを飲みながらの、文字通り「サイエンス・カフェ」。「近所に住む、或いは同じ労組に属している顔見知りの JSA 会員」として気軽に誘われたのだと思います。参加者が時間を忘れて質問や意見をだすことが特徴。今年のシンポジウム分科会のように、少人数の発言しやすい雰囲気と、そもそも話が好きな女性の特徴からでしょう。

質問に備えて勉強するなかで、暮らしの中の放射性物質・放射線について如何に無知であったかを反省しました。例えば、「ラジウム温泉を家庭で」と、ラジウム鉱石（塗布したもの？）が販売されています。「血液に運ばれて全身をめぐる、健康増進に役立ちます」とのこと。これっ

て、被曝の勧め？ 古くは蛍光塗料に放射性物質が使用されており、製造に携わる労働者に多数の被曝被害があったことも知りました。

大阪在住者としては、現在漏えいした放射性物質を恐れるだけではなく、小～中規模の事故を多数起こしてきた福井の原発群の廃炉を求めていくこと、さらに危険な原子力空母を日本から追い出すことが、放射線被曝の予防に重要ではないかーと問いかけています。放射線だけでなく、種々の自然科学・社会科学について、多数の語り部の必要性を感じています。

中村寿子 (大阪支部)

4. 第46期 第3回 女性研究者技術者委員会(拡大委員会)記録

○日時：2011年5月7日 14:00～17:30

○場所：日本科学者会議 全国事務局会議室

○出席者(順不同、敬称略)：

北海道：落合、東京：池上、石渡、今枝、河野、富山：金子、京都：長谷川、大阪：中村、神戸：朴木、JSA：米田事務局長、藤井担当常幹、馬渕機関紙編集委員

○議題

1. 日本科学者会議の取り組み

①「日本の科学者」女性研究者問題特集号について(委員 敬称略)

2011年12月号特集。ワーキンググループ(池上、石渡、沢山、朴木、馬渕)で内容詰める。男女共同参画学内組織がある55大学へアンケート実施、分析。委員会名で執筆。

②大震災関連(米田事務局長より)

大震災をチャンスに構造改革を進めようとする国や財界の動きが急。科学者会議の取り組み・活動が求められている。各地のシンポジウム大盛況。ホームページ「科学者の眼」へのアクセス急増。

③会員拡大・財政強化関連(米田事務局長より)

カンパが多く寄せられた。会員拡大を積極的に5000名回復を早期に。

2. 女性研究者技術者委員会 活動報告と予定

①2010年活動のまとめ

*18 総学分科会成功 *第46期 第2回女性研究者技術者委員会 *No23 ニュース発行

*第8回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加 等 (詳しくはNo23 ニュース参照)

②第47期(2011～2012)委員会 体制と予定(委員 敬称略)

a. 女性研究者技術者委員会

委員長：沢山(岡山) 連絡会：石渡(東京)

ホームページ：今枝(東京) ニュース：中村(大阪)

b. 全国担当

常任幹事：河野(東京) 学術体制部会：東京支部から後日選出(女性委員長代理)

c. 全国大会出席&女性委員会関連発言 予定：池上(東京)

d. 第13回女性研究者技術者全国シンポジウム

e. ニュース No.24 発行予定：2012年早々 内容：第13回女性シンポジウム特集

③第47期 女性研究者技術者委員会 委員連絡員名簿(委員 敬称略)

金子、池上、朴木が手分けして、アドレス不明のメンバーに連絡を取り、アドレスを把握、メールでの打ち合わせが可能になるよう努力する。

3. 第十三回女性研究者技術者全国シンポジウム企画関連

①日時 2011年10月16日 13:00~17:00

②京都 立命館大学 朱雀キャンパス (候補場所)

③テーマ 「女性研究者・技術者の明日を考える」

④記念講演：宇野賀津子さん(京都女性研究者の会 ルイ・パストゥール医学研究センター)

話題提供：今田絵里香さん(京都大学)、朴木佳緒留さん(神戸大学)

話題提供依頼先：大学非常勤組合、あかりんご隊メンバー等

⑤体制

実行委員長：坂東昌子さん(NPO 法人知的人材ネットアーク あいんしゅたいん理事長)に依頼

現地実行委員会：京都支部で相談、補強すべきメンバーを関西一円から募る。

⑥内容、スタイル等

記念講演、パネル発言、ラウンドテーブルによる参加者全員討論。

4. 全国の情勢と取り組み、各地の状況

①北海道女性研究者の会「通信 No66」の贈呈を受けた。各委員・連絡員が支部へ持ち帰り。全国事務所に複数冊保存。

②その他 各委員・連絡員の活動状況を報告、意見交換実施。

5. 女性研究者・技術者委員会関連活動・交流の記録(2011年)

1. 委員会開催：2011年5月7日

2. 第13回女性研究者技術者全国シンポジウム 開催日時：2011年10月16日(日)

3. メーリングリストによる情報交換・議論、各種呼びかけと応答：

zenkoryu(女性研究者・技術者、男性会員含む、自由参加用) 計45件+返信

jsa-z-woman(委員・連絡員用)計75件+返信(シンポジウム別)

今年は、岡山でお会いしましょう(岡山のユルキャラ君)

第19回総合学術研究集会(岡山)

テーマ：「持続可能な社会への変革をともに」

日時：2012年9月14日(金)~16日(日)

場所：岡山大学一般教育棟(岡山市北区津島中2-1-1)

女性交流会：9月14日(金)18:00-20:00(予定)



zenkoryu(女性・男性会員向け、自由参加用メーリングリスト)にご参加ください。研究、権利・人権、男女共同参画…情報提供も相談や依頼も歓迎。申し込みは日本科学者会議ホームページから、または各支部の委員か連絡員へ。